

循環病態薬物療法特論（高橋俊介）

Advanced Course of Circulation Control (Shun-suke Takahashi)

キーワード

- ① 薬物療法
- ② 歯肉微小循環
- ③ 生活習慣病
- ④ 口腔-全身循環相関
- ⑤ 血流依存性血管拡張反応

授業概要

心臓・脳血管障害、糖尿病、高血圧症、脂質異常症（高脂血症）、肥満などの循環機能障害に関連した生活習慣病の薬物治療にまつわる近年の報告や当方で得られた知見や報告を加え、これら疾患が及ぼす全身及び口腔内循環調節機構への影響とそれに対する薬物療法についての見識を深める。さらに、罹患の原因となる生活習慣、口腔内環境について、そして罹患後の薬物治療の意義について解説加えながら議論を進め、口腔環境から見た生活習慣病に対する薬物治療に関する知識と応用力を身に付ける。

授業科目の学修目標

生活習慣病の薬物治療に関する近年の報告や当方の知見に加え、全身及び口腔内循環調節機構への影響と薬物療法についての見識を深める。さらに、生活習慣、口腔内環境について、罹患後の薬物治療の意義について解説加えながら議論を進め、口腔環境から見た生活習慣病に対する薬物治療に関する知識と応用力を身に付ける。

授業計画

- ① 生活習慣病と循環機能変動の意義
 - ・口腔循環病態学 2コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣病-循環病態論 8コマ 高橋俊介
- ② 生活習慣病による循環機能病態への薬物療法 4コマ 高橋俊介
- ③ 循環制御歯科学的薬物治療論
 - ・生活習慣病と生体反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣病と歯肉組織反応論 2コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と末梢血管弾性-口腔血管機能反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と口腔内循環による生体情報解析論 4コマ 高橋俊介
 - ・歯周病・生活習慣病の相関性理論と口腔内循環による疾病重症度解析論 2コマ 高橋俊介

教科書および参考書

- ・血管内皮機能を診る 循環器疾病管理に生かす評価と実際、南山堂、東條美奈子
- ・非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、槻木恵一監修

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

循環病態薬物療法特論では関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 生活習慣病と循環機能変動の意義を説明できる。
- ② 生活習慣病による循環機能病態への薬物療法を理解し応用することができる。
- ③ 循環制御歯科学的薬物治療論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、循環病態薬物療法特論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

循環病態薬物療法特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。